

# 戦中戦後の体験記

金光育子さん

昭和16年6月、私が小四の時、海軍軍人だった父が乗っている軍艦が、横須賀港から出港するので、母と小高い丘の上から、東京湾を南下する艦を見送った。今、思うと母の気持ちは如何ばかりだったかと思う。

その年の12月、太平洋戦争が始まり、私が「お父さんは？」と聞くと、母は「太平洋のどこかにいらっしゃるでしょう」と言っていた。日本は、南アジア方面に進み、17年2月にはシンガポールを陥し、父が市中行進している写真が新聞にのり、びっくりした。と同時に父の元気な姿が見れて嬉しかった。

間もなく、「東京勤務になったよ。」と言って、父が突然帰ってきた18年10月、明治神宮外苑<sup>えん</sup>で学徒出陣壮行会<sup>(1)</sup>があり、父も、見送ったそう。多くの有望な青年を失う事になり、日本は大きな損失だったと思う。

それから父が、呉に転勤し、私も呉の女学校に転校した。その後、日本の戦況が次第に悪化し、20年7月に呉市街も、軍港も爆撃され、学校も全焼した。自宅は天應<sup>(2)</sup>なので、汽車通学で毎日、学校に焼け跡の片付けに行っていた。

ある日、通学途中、米軍の来襲で汽車は止り、私達は、汽車から飛び降りて物影に入ろうとした時、もう米機が頭上におり、私が見た時、ごっついメガネをかけた操縦士と目が合った様な気がした。やられると思った時、飛行機はよその方に飛んで行き、汽車が「ポー」と鳴ったので、友達を見ると倒れているので、駆け寄ったら「私、死んだふりしてたの。」と呑気な事を言って、「お互い命あったね。」と言いながら急いで汽車によじ登り、座席に着いたら、お弁当がなくなっていた。そのまま学校に行き、作業をしてきたくたになり帰宅した。何故、あの米機は機銃掃射しなかったのだろうか、今も時々思う。

翌日から母がザルに芋や南瓜<sup>かぼちゃ</sup>を入れてくれた。どこに行くにも大事に持ち歩いた。も

う食料事情も非常に悪くなった。

その後、学徒動員で、兵隊さんのパン作りに行く事になった。毎、朝礼後、軍のトラックが迎えに来て山の方のパン工場で、小豆の石取りをさせられた。毎日暑い、薄暗い、山の横穴の中での作業は、頭がボーンと変になりそうだった。

ところが、8月6日朝礼の時、空がピカリと光り、後方で大音がして、その後B29だったろうか、私達の頭上を悠然と南の空に飛んで行った。後で、広島に原爆が投下されたと知った。その日は、パン工場のトラックは、広島に行ったそうで、私達を迎えに来なかった。先生が「今日は状勢が悪いから帰りなさい。」と言われ帰宅した。

家に母は留守で、余りに暑いので、近くの海に友人と泳ぎに行った。今考えると、広島湾には、沢山の放射能が浮いていただろうにと思う。先生が危険だから帰宅する様に言われたのに、何て事をしたのだろうかと思う。海で夕方まで遊び帰宅すると、母は、婦人会から、近くの小学校講堂に次々と運ばれて来る広島の負傷者の看護に当たっていたそうだが「薬もなく、うちわであおいで、水を飲ましてあげることしか出来なかった」と、くやしそうに言っていた。私も小学校に行って見たけど、皆さん痛い々と言いながら、1人、2人と亡くなっていった。

あの光景は、何とも言えませんでした。

そして8月15日昼、呉駅前広場に正座して、終戦の玉音を聞いた。色々な思いが、折り重なって、そこにいた人、皆で泣いた。

間もなく、私が家にいた時「ハロー」と言って、米兵が窓から覗いた<sup>のぞ</sup>ので、それは驚いた。終戦すぐ米艦が呉港に来たらしい。

9月、枕崎<sup>(3)</sup>台風が来て、3日3晩雨が降り続き、17日夜、就寝中に水と土砂が家に入りこみ、私は蚊帳<sup>(4)</sup>から出られず、このまま流されるのではと置いていたら、父が蚊帳をはずしてくれて助かった。

家は住む事も出来ず、近所の人、数軒で、家も家財道具も捨てて、舟で水島港まで来た。その時、南畝の方が親切に、ゴザや、おにぎり持って来て下さり、本当に有難かつ

た。この御恩は、一生忘れません。私達は、水島に住まい、私は倉敷の女学校（今の青陵高）に転校した。通学途中、美観地区を通る度、今まで軍港の町で育った私は、日本にもこんな落ちついた静かな町があるのかと思った。両親にも倉敷ですずっと暮らしたい、お友達もいいし、もう転校はしたくないと言った。

父も倉敷で仕事をする様になり、ずっと、この地でおだやかに暮し94才で旅立った。

戦争は、なんの恩恵もなく、人類に多大の犠牲を与え、不幸をもたらす事になるだけだと思ふ。世界中が平和で、人々が安心して暮せる様にと祈り、私も神様から頂いたこの命を大切に生きていきたい、と思っています。

- 
- 1 学徒出陣...第二次世界大戦末期の1943年以降、兵力不足を補うため、それまで26歳までの大学生に認められていた徴兵猶予を文化系学生については停止して、20歳以上の学生を入隊、出征させたこと。
  - 2 天応。呉市の地名。
  - 3 枕崎台風...1945年9月に日本を縦断した台風で、室戸台風、伊勢湾台風と並んで昭和の三大台風の一つに数えられる。終戦直後のことであり、気象情報が少なく防災体制も不十分であったため、各地で大きな被害が発生した。特に広島県では、死者・行方不明者合わせて2,000人を超えるなど甚大な被害となった。
  - 4 蚊帳...夏の夜、蚊や害虫を防ぐため、四隅を吊って寝床を覆う道具。